

令和6年度 鑑石園在宅介護支援センター 事業報告書

1. 事業運営の概況

令和6年度は、主任介護支援専門員2名と常勤介護支援専門員2名の4名体制にて特定事業所加算Ⅱを算定。

居宅支援人数は、目標とする1776人以上／年、一人当たり37人以上／月に対し、1,616人／年、一人当たり34.1人／月となり、目標達成できなかった。

2. 事業計画実施状況

(1) 安定した事業運営

年間合計居宅支援人数は、昨年度比、介護給付が948人→1045人、予防給付が504人→571人、合計人数1,452人→1,616人となり、164人増加(111%)となったが、目標とする1776人以上／年を達成することはできなかった。一人当たりの担当人数も、30.9人／月→34.1人／月と増加したものの、目標の37人以上／月を達成することができなかった。

新規受託人数は、令和5年度57人に対し、令和6年度は40人と17人減少している。

目標が達成できなかった要因として、ひとり暮らしや高齢者世帯、虐待ケース等、1ケース当りの業務負担が大きいことや、各職員の新規受託への積極性の欠如があったと考える。また、年度末に介護支援専門員の一人が退職、一人が配置換えとなり、支援件数が減少した。

(2) 働きやすい職場づくり

業務の効率化を図るべく、ケマネジメント業務とミーティング方法の見直しを行った。

困難事例に対しても事業所内で検討を行い、ひとりで抱え込むことがないよう事業所全体で支援ができるように努めた。

(3) 地域や医療との連携強化

地域支援窓口と協同し令和6年6月に原田公園祭りに参加し、令和7年3月に「南海トラフ大地震と福祉」と題した防災講座を開催した。

令和7年2月には吉原中部包括圏域の事業所(オアシス在宅介護支

援センター、在宅介護支援センターふじみ台、居宅介護支援事業所朋優、養護老人ホームするが荘、小規模多機能ももの花)との合同事例検討会を実施した。

その他、随時、地域包括支援センターを始め、関係諸機関や医療機関、サービス提供事業所と密に連携を行い、顔の見える関係作りに努めた。

(4) 職員の資質向上

各職員が年間個別研修計画を立て、法定研修、富士市介護保険課や地域包括支援センター主催研修、各自必要とされる研修への参加を計画的に行い、事業所内での伝達を行った。

今年度も主任介護支援専門員研修に1名参加し修了。

苦情件数は、3件でケアマネに対して2件、サービス提供事業所に対して1件で丁寧な対応に努め、ご理解を得ることができた。今後も貴重なご意見として真摯に受け止めサービスの向上に繋げていく。